



ことばの力とメリハリの話

私事ですが子どもが二人おりまして、下は小学四年生の女子です。口が裂けてもデリケートとは言えない娘で、よく小さなトラブルを起こします。注意のしすぎか、小学1年生の頃には娘からすると怖いお父さんというイメージで、父子関係が悪化しておりました。言葉の持つ力は不思議で、荒い言葉を使えば気持ちがガサつき、優しい言葉を使うと、自然と気持ちも落ち着きます。荒い言葉で注意すれば、当然荒っぽい返事がかえってくるので、悪いサイクルに陥ります。「こだまですか？いいえ、だれでも」というわけです。そこで、2年生になったころから娘を『ちゃん付け』で呼ぶようにしてみました。トラブル発生時にも、呼び捨てだと、『○○、いい加減にしてください！』とつながるところが、『○○ちゃん、それはさすがに困るよ』くらいのマイルドさになるのです。反対に、命に関わる悪ふざけなど、真剣に注意したい時は、逆をすればいいというわけです。ちょっとした心がけですが、いまだに毎晩抱っこをせがまれる程度に父子関係が改善されました。同じようなお悩みの方がいらっしゃれば、ぜひ試してみてください。

山田 裕宇記